

朝鮮慶尙南道赤布橋工事報告

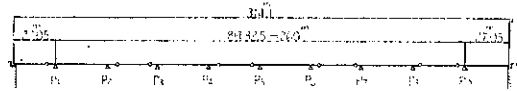
(第 22 卷 第 2 號 第 6, 7 號 所 載)

會 員 中 道 峰 夫*

角田氏の御報告を拜見し感じたままを述べて御高示に與りたいと存じます。

(1) 径間割並に型式採用に就て

下部工事に相當の費用と工期を要する故、更に長径間を採用する場合、鉄筋コンクリート桁としたきも、現場の狀勢に對しては支保工に多大の工費を要し且洪水時の危険を件ふを以て全部鋼鉄桁とし 1 径間 32.5 m 程度として径間割を行へば右圖の如くなる。



工費内譯に依り

鋼鉄桁橋体 1 m² 當 51.5 円とすれば

鋼鉄桁橋体工費 $51.5 \times 1884.6 \div 97000$ 円 (1884.6 m² … 總橋面積)

實施橋体費 $433585 + 28599 \div 71960$ 円

差 引 $97060 - 71960 = 25100$ 円 … (1)

節約し得る橋脚費

非筒基礎のもの 4 基 $6500 \times 4 = 26000$ 円

杭打基礎のもの 1 基 2600 円

計 28600 円 … (2)

(1) 及 (2) の差引

$28600 - 25100 = 3500$ 円 … 鋼鉄桁に依る方有利

以上により橋脚數を 9 基に減少することを得、工費、工期、施工設備等に於て相當有利、簡單とならざるや。尙舟運の便、洪水の影響等に對しても長径間の方得策ならざりしや。

(2) 控径間と吊径間の径間長に大小あるは設計理論上よりかと思はれるも、之を等しくする場合と設計並に施工上何れが有利なるや。

(3) 非筒に就て

(イ) 非筒継足の回數は工費並に工期に影響を有するものなるが之を 6 回に分割せられたるはコンクリート打、掘鑿沈下の設備に依るものなるや又は他に理由ありや。

(ロ) 水中爆破による沈下の狀況と其の際取られたる他の方法あれば御知らせ願度。

* 内務技師 工學士 内務省下關土木出張所勤務